


株主の皆様へ

第170期 中間報告書

平成29年4月1日から平成29年9月30日まで



モノを動かす。心で動かす。

 三井倉庫ホールディングス

当中間期(連結)のハイライト

| | 平成30年3月期中間期 | 平成29年3月期(参考) |
|-------------------------|----------------------------|--------------|
| 営業収益 | 1,148億4,300万円 (前年同期比+2.7%) | 2,255億 300万円 |
| 営業利益 | 34億9,200万円 (前年同期比+49.7%) | 58億2,300万円 |
| 経常利益 | 36億5,700万円 (前年同期比+165.8%) | 36億6,800万円 |
| 親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益 | 17億9,900万円 (前年同期比-) | △234億2,700万円 |
| 1株当たり中間(当期)純利益 | 14円49銭 (前年同期比-) | △188円65銭 |

<平成30年3月期の連結業績予想> 営業収益：2,250億円 営業利益：65億円 経常利益：60億円 親会社株主に帰属する当期純利益：39億円
(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

目次

| | | | |
|-----------------------|---|------------|---|
| ごあいさつ | 1 | 中期経営計画2017 | 6 |
| 当中間期(連結)累計期間の概況 | 2 | 連結財務諸表 | 8 |
| グラフで見る三井倉庫グループ(連結ベース) | 3 | 会社の概要 | 9 |
| 企業集団の事業別の概要 | 4 | 株式の状況 | 9 |
| 事業別概況 | 5 | | |

<注記>

この冊子においては、将来の見通しに関する記述が様々な表現でなされていますが、その見通しはリスクや不確実性に左右され、実際の結果と大きく異なることも考えられます。読者の皆様には、これらの将来に関する記述に過度に依存なさらないようお願いいたします。

ごあいさつ

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第170期中間報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

まず、前期末配当に続き、当期中間配当を見送らせていただくこととなりましたことを株主の皆様には深くお詫び申し上げます。

平成30年3月期中間期の当社グループの業績は、物流事業においては、倉庫業務において従来から注力しているヘルスケア物流の新規取扱開始、3PL業務ならびにサプライチェーンマネジメント業務の取扱増加といった、注力分野ならびにM&Aを通じて拡充してきた物流機能における取扱が増加したことに加え、既存の業務も堅調であったことから増収増益となりました。また、不動産事業はわずかに減収ながら増益となりました。

これらの結果、連結営業収益は前年同期比30億29百万円増（2.7%増）の1,148億43百万円、連結営業利益は同11億59百万円増（49.7%増）の34億92百万円、連結経常利益は同22億81百万円増（165.8%増）の36億57百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同16億61百万円増の17億99百万円となりました。

当社グループはこれまで、中期経営計画MOVE2015のもと、不動産事業依存からの脱却ならびに、グローバル・ロジスティクスカンパニーへの新たなステージへ向けて様々な施策を実行してまいりました。その結果、多様化するお客様の物流ニーズに対応可能なフルスペックの物流機能を備えるに至りましたが、外部環境の変化、グループシナジー創出や新規業務獲得の遅れ等により、同中期経営計画で掲げた数値目標は達成困難な状況となり、又、平成29年3月期決算において多額の減損損失を計上したことにより自己資本を大きく毀損いたしました。



代表取締役社長 古賀 博文

このような状況を反転させるべく、新経営体制のもと、本年11月に新たな5ヵ年計画「中期経営計画2017」を策定いたしました。本計画の詳細につきましては、当報告書の後段でご説明させていただきますが、事業リスクを十分に考慮し具体的な施策を着実に積み上げることで、足元の平成30年3月期を含めた最初の3年間で反転を終え、残りの2年間で持続的成長へとつなげてまいりたいと考えております。

株主の皆様には、こうした当社の考えと取組みをご理解いただき、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当中間期(連結)累計期間の概況 (平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)

■ 全般の概況

平成30年3月期中間期におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いており、鉱工業生産は前年同期比で増加傾向が続き、景気動向指数も改善を示しております。

物流業界におきましては、保管残高は前年同期比ほぼ横ばいで推移し、荷動きを示す回転率は上昇しております。

こうした経済環境の中、当中間期の当社グループの業績は、物流事業においては、倉庫業務において注力しているヘルスケア物流の新規取扱開始、3PL業務ならびにサプライチェーンマネジメント業務の取扱増加といった、注力分野ならびにM&Aを通じて拡充した物流機能における取扱が増加したことに加え、既存業務も堅調であったことから増収増益となりました。また、不動産事業はわずかに減収ながら増益となりました。

これらの結果、連結営業収益は前年同期比30億29百万円増の1,148億43百万円、連結営業利益は同11億59百万円増の34億92百万円、連結経常利益は海外子会社が親会社から借り入れているドル建て借入金について現地通貨に対してドルが下落したことから為替差益が発生し、同22億81百万円増の36億57百万円、親会社株主に帰属する当中間期純利益は同16億61百万円増の17億99百万円となりました。

■ 財政状態の変動状況

当中間期連結会計期間末の総資産は、新規の倉庫施設の取得をした一方、手元現預金を有利子負債の返済に充てたことなどにより、前連結会計年度末より50億11百万円減少し、2,626億66百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する当中間期純利益の増加、その他有価証券評価差額金の増加などから前連結会計年度末より42億90百万円増加し、461億11百万円となりました。

■ キャッシュ・フローの状況

当中間期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前純利益が前年同期比で増加したこと、法人税等の支払額の減少などにより前年同期比23億50百万円増加の81億58百万円の収入となりました。

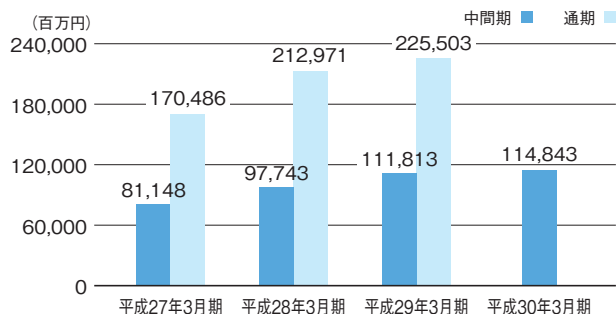
投資活動によるキャッシュ・フローは、保有資産の売却を行う一方、新規投資は仕掛かり中の案件を主体にするなど抑制的に運用した結果、前年同期比2億91百万円支出の減少となる46億82百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還及び長期借入金の返済による支出などにより前年同期比109億23百万円支出の増加となる128億92百万円の支出となりました。

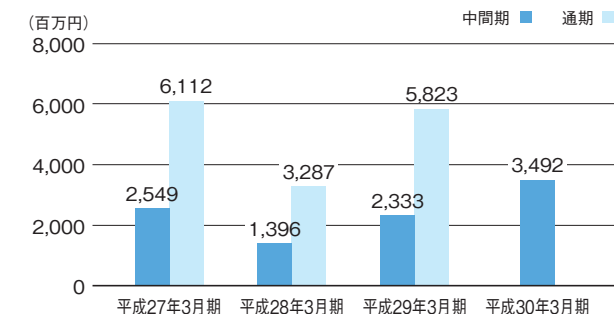
以上の結果、現金及び現金同等物の当中間期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末より93億30百万円減の215億60百万円となりました。

グラフで見る三井倉庫グループ (連結ベース)

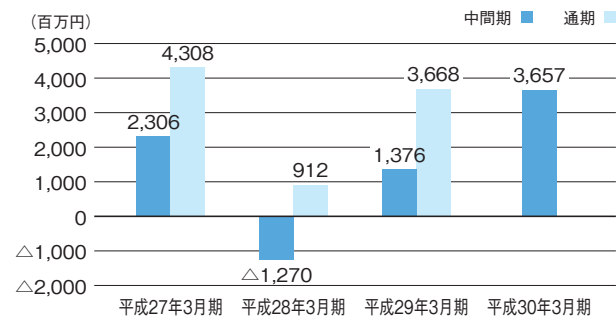
営業収益



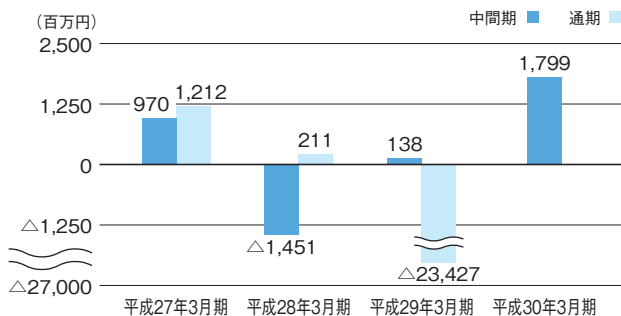
営業利益



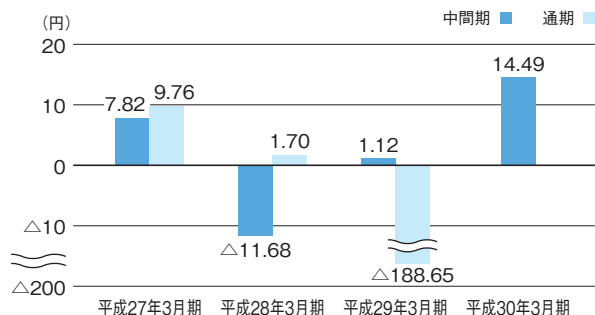
経常損益 (損失は△)



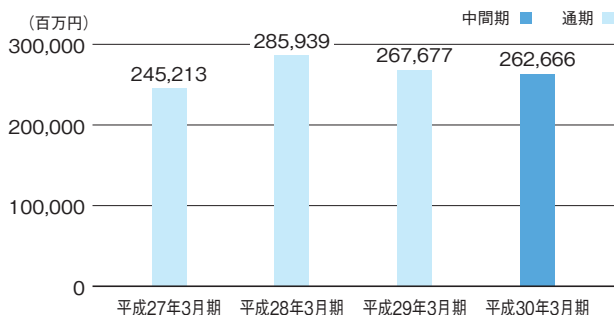
親会社株主に帰属する中間(当期)純損益 (損失は△)



1株当たり(当期)純損益 (損失は△)



総資産



(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

企業集団の事業別の概要

当社グループの主たる事業は、倉庫保管、港湾作業、陸、海、空における国内・国際運送、3PLサービスおよび、SCMマネジメント支援等の物流の各機能を有機的、効率的にお客様に提供する物流事業ならびにビル賃貸業を中心とする不動産事業です。各事業の内容は以下のとおりです。

▶ 事業会社各社の「強み」を最大限に発揮する遠心力と、それぞれの機能の連携によるグループシナジーにより成長戦略を実現



保管・運送・アウトソーシング業務
コンテナターミナルオペレーション

倉庫保管・BPO・港湾運送



陸上貨物運送

トラック運送機能を中心とした
物流ネットワークサービスの提供



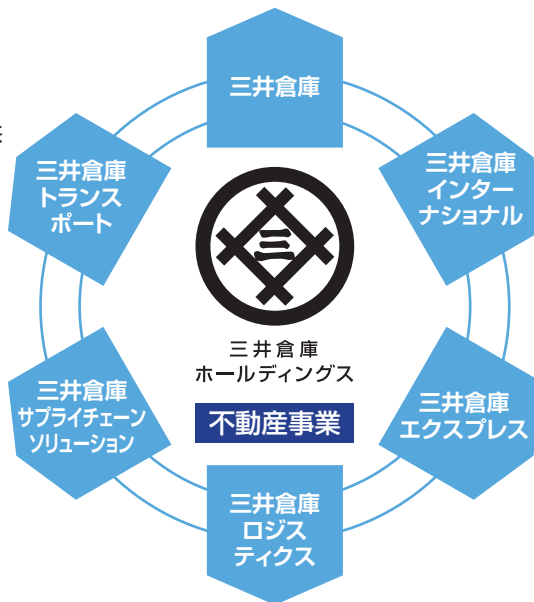
海外における物流サービス

海外現地法人による保管・運送・
通関等サービスの提供



サプライチェーン マネジメント支援

生産工程プロセスまで視野に
入れたサプライチェーンの構築



航空貨物輸送、複合一貫輸送

自動車部品を中心とした
航空貨物輸送及び海上複合一貫
輸送サービスの提供



サードパーティー ロジスティクス

家電製品を中心とした
物流センターの運営・配送

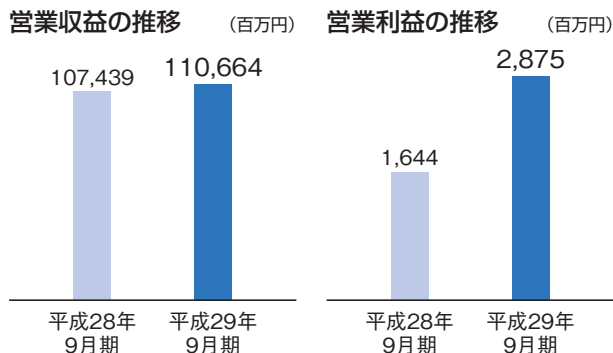


事業別概況

物流事業

営業収益：1,106億64百万円
(前年同期比32億25百万円増)

営業利益：28億75百万円
(同12億30百万円増)

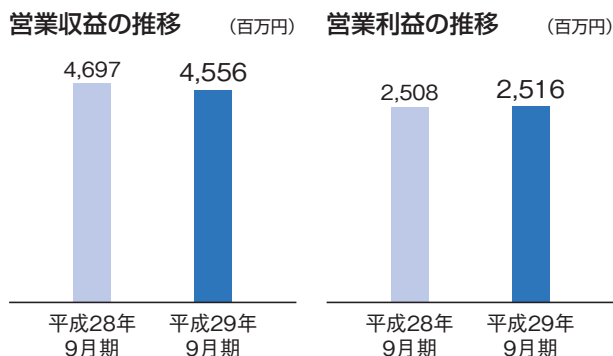


物流事業においては、倉庫業務において注力しているヘルスケア物流の新規取扱開始、3PL業務ならびにサプライチェーンマネジメント業務の取扱増加といった、注力分野ならびにM&Aを通じて拡充した物流機能における取扱が増加したことに加え、既存業務も堅調であったことから増収増益となりました。

不動産事業

営業収益：45億56百万円
(前年同期比1億40百万円減)

営業利益：25億16百万円
(同8百万円増)



賃貸物件における主要なテナントに大きな変動はなくわずかに減収ながら安定的に推移いたしました。

(注)営業収益はセグメント間の内部収益または振替高を含み、営業利益は管理部門に係る費用の調整前の金額としております。

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中期経営計画2017 ～反転から持続的成長～

三井倉庫グループは、2022年3月期を最終年度とする新たな5ヵ年計画「中期経営計画2017」を発表しました。下記の事業運営の基本方針のもとで計画を推進してまいります。

目指す姿

■ 経営目標 (2022年3月期末)

| | |
|-----------|---------|
| ・ 営業利益 | 100億円 |
| ・ 有利子負債残高 | 1,300億円 |
| ・ D/Eレシオ | 2.0倍以下 |
| ・ ROE | 9.0%超 |

お客様から信頼されるファーストコールカンパニー

事業運営の基本方針

- 1 抜本的な事業収益力の強化
- 2 財務基盤の再建
- 3 グループ経営の強化による顧客起点の統合ソリューションサービスの構築

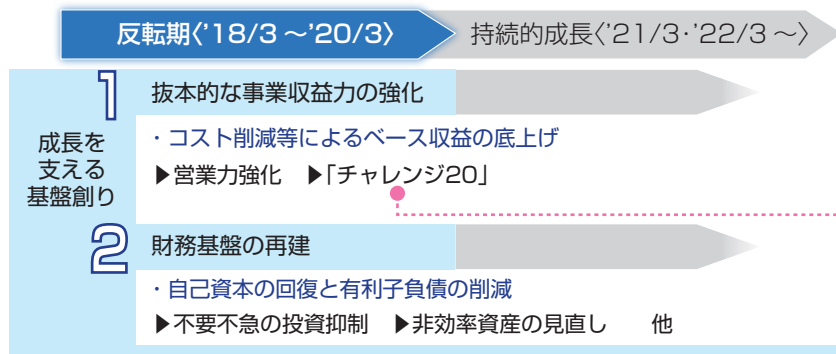
経営基盤を揺るぎないものとすると同時に、企業風土の改革を含め、経営資源を改めて見直しながら、総合物流企業として「フルスペックの物流機能」の最大化を図るとともに、2022年3月期営業利益100億円を目指します。

グループ一丸となり、国や地域、業種の垣根を越えてお客様の課題解決に真摯に取り組むことにより、お客様から信頼されるファーストコールカンパニーを目指したいと考えております。

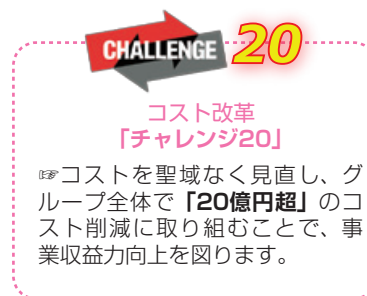
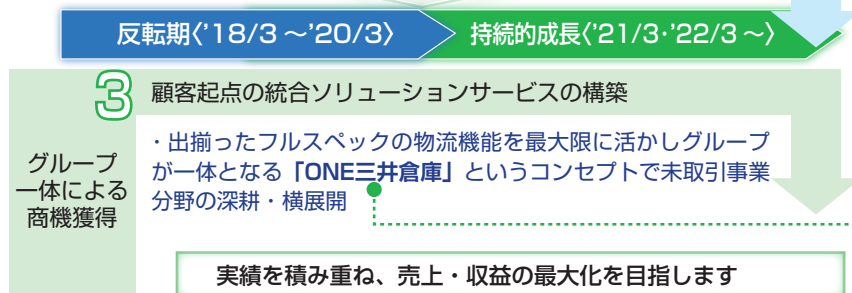


◆ 中期経営計画2017の施策について

今回策定した「中期経営計画2017」では、5ヵ年計画の下記施策のもと、最初の3年間は「反転期」とし、成長を支える基盤づくりに注力いたします。



また、今後の持続的成長につなげるため、当社の持つ事業面における経営資源を最大活用いたします。



グループ内意識改革

様々な文化・風土を持つ事業会社(従業員)がひとつになることで、これらの事業方針・施策を実行することが可能となります。

改革を下支えする人事改革も進めてまいります。

- ・ 明るい職場
- ・ 楽しい職場
- ・ 活気ある職場

を創造する

連結財務諸表

平成30年3月期中間期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科目 | 当中間期末 | 前期末 | 科目 | 当中間期末 | 前期末 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | 平成29年9月30日現在 | 平成29年3月31日現在 | | 平成29年9月30日現在 | 平成29年3月31日現在 |
| (資産の部) | | | (負債の部) | | |
| 流動資産 | 64,700 | 73,861 | 流動負債 | 81,952 | 65,882 |
| 現金及び預金 | 21,933 | 31,822 | 支払手形及び営業未払金 | 17,931 | 17,034 |
| 受取手形及び営業未収金 | 32,784 | 32,407 | 短期借入金 | 12,872 | 6,058 |
| その他 | 10,038 | 10,025 | 1年内返済予定の長期借入金 | 19,356 | 14,972 |
| 貸倒引当金 | △56 | △393 | 1年内償還予定の社債 | 10,000 | 7,000 |
| 固定資産 | 197,965 | 193,815 | 未払法人税等 | 1,484 | 1,737 |
| 有形固定資産 | 145,728 | 144,911 | 賞与引当金 | 3,001 | 2,835 |
| 建物及び構築物 | 78,520 | 74,032 | その他 | 17,306 | 16,243 |
| 土地 | 55,797 | 56,397 | 固定負債 | 134,602 | 159,974 |
| その他 | 11,410 | 14,482 | 社債 | 30,000 | 40,000 |
| 無形固定資産 | 17,078 | 17,149 | 長期借入金 | 84,788 | 100,847 |
| のれん | 10,341 | 10,529 | 退職給付に係る負債 | 6,185 | 6,122 |
| その他 | 6,737 | 6,620 | その他 | 13,629 | 13,004 |
| 投資その他の資産 | 35,158 | 31,754 | 負債合計 | 216,554 | 225,856 |
| 投資有価証券 | 18,351 | 15,397 | (純資産の部) | | |
| その他 | 17,394 | 16,579 | 資本金 | 11,100 | 11,100 |
| 貸倒引当金 | △587 | △223 | 資本剰余金 | 5,563 | 5,563 |
| 資産合計 | 262,666 | 267,677 | 利益剰余金 | 16,019 | 14,219 |
| | | | 自己株式 | △102 | △101 |
| | | | その他有価証券評価差額金 | 8,188 | 6,151 |
| | | | 繰延ヘッジ損益 | 0 | 0 |
| | | | 為替換算調整勘定 | 787 | 178 |
| | | | 退職給付に係る調整累計額 | 537 | 597 |
| | | | 非支配株主持分 | 4,015 | 4,110 |
| | | | 純資産合計 | 46,111 | 41,820 |
| | | | 負債純資産合計 | 262,666 | 267,677 |

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

平成30年3月期中間期連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 当中間期累計 | 前年同期 |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成29年4月1日から平成29年9月30日まで | 平成28年4月1日から平成28年9月30日まで |
| 営業収益 | 114,843 | 111,813 |
| 営業原価 | 101,394 | 98,466 |
| 営業総利益 | 13,448 | 13,346 |
| 販売費及び一般管理費 | 9,955 | 11,012 |
| 営業利益 | 3,492 | 2,333 |
| 営業外収益 | 1,282 | 837 |
| 営業外費用 | 1,117 | 1,794 |
| 経常利益 | 3,657 | 1,376 |
| 特別利益 | 39 | 218 |
| 特別損失 | 223 | 47 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 3,473 | 1,546 |
| 法人税等 | 1,367 | 1,202 |
| 四半期純利益 | 2,105 | 343 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 305 | 205 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1,799 | 138 |

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

会社の概要 (平成29年9月30日現在)

| | |
|-----------|---|
| 商号 | 三井倉庫ホールディングス株式会社 |
| 設立 | 明治42年(1909年)10月11日 |
| 本社 | 東京都港区西新橋三丁目20番1号 |
| 資本金 | 11,100,714,274円 |
| 従業員 | 856名/単体(含む出向者707名) 8,784名/連結 |
| グループ国内主拠点 | 東京、横浜、名古屋、大阪、神戸、福岡 |
| グループ海外主拠点 | アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、イギリス、 ベルギー、デンマーク、チェコ、ポーランド、 トルコ、アラブ首長国連邦、シンガポール、 マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、 インド、南アフリカ、香港、中国、台湾、韓国 |
| グループ事業会社 | 三井倉庫株式会社 Mitsui-Soko International Pte. Ltd. 三井倉庫エクスプレス株式会社 三井倉庫ロジスティクス株式会社 三井倉庫サプライチェーンソリューション株式会社 三井倉庫トランスポート株式会社 以上 6社 |

| | | |
|-----|------------|-------|
| 取締役 | 取締役 会長 | 田原口 誠 |
| | 代表取締役 社長 | 古賀 博文 |
| | 代表取締役専務取締役 | 小田中 修 |
| | 代表取締役専務取締役 | 中山 信夫 |
| | 取締役上級執行役員 | 小川 良司 |
| | 取締役上級執行役員 | 増田 孝義 |
| | 取締役上級執行役員 | 松川 昇 |
| | 取締役上級執行役員 | 郷原 健 |
| | 取締役 | 宮島 義明 |
| | 取締役 | 木納 裕 |
| | 社外取締役(非常勤) | 内田 和成 |
| | 社外取締役(非常勤) | 古橋 衛 |
| 監査役 | 常任常勤監査役 | 笹尾新一郎 |
| | 常勤監査役 | 宮下 紀夫 |
| | 常勤社外監査役 | 菊地麻緒子 |
| | 社外監査役(非常勤) | 須藤 修 |
| | 社外監査役(非常勤) | 小澤 元秀 |

株式の状況 (平成29年9月30日現在)

発行済株式の総数……………124,415,013株(前中間期末比 増減なし)
株主数……………8,599名(前中間期末比-844名)

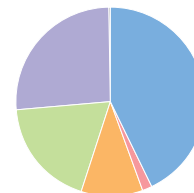
大株主(上位10名)

| 氏名 | 所有株式数(千株) | 出資比率(%) |
|---|-----------|---------|
| 三井生命保険株式会社 | 7,846 | 6.3 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 7,359 | 5.9 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 7,005 | 5.6 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 4,196 | 3.4 |
| NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT | 3,631 | 2.9 |
| 株式会社三井住友銀行 | 3,484 | 2.8 |
| 三井倉庫グループ従業員持株会 | 2,563 | 2.1 |
| 株式会社竹中工務店 | 2,484 | 2.0 |
| DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO | 2,259 | 1.8 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 2,187 | 1.8 |

(注)発行済株式総数 124,415,013株
千株未満の株式数は切り捨て。
出資比率は小数点2位以下を四捨五入、自己株式(231,349株)を控除して算出。

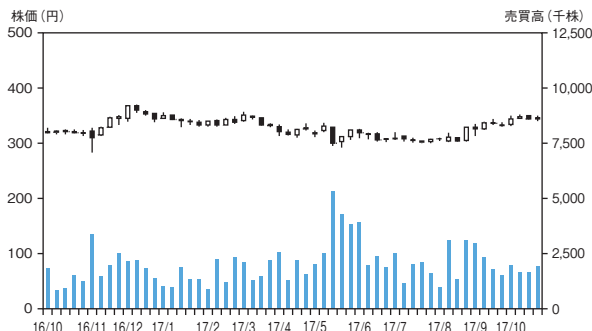
所有者別分布状況

| | | |
|----------|----------|-------|
| 金融機関 | 53,356千株 | 42.9% |
| 証券会社 | 2,248千株 | 1.8% |
| 国内法人 | 12,984千株 | 10.4% |
| 外国人 | 23,282千株 | 18.7% |
| 個人・その他 | 32,311千株 | 26.0% |
| 当社(自己株式) | 231千株 | 0.2% |



株価及び売買高の推移(東京証券取引所)

(証券コード9302)



● 株主メモ

| | |
|----------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月下旬に開催 |
| 同総会における議決権行使株主 | 基準日現在1単元(1,000株)以上を有する株主 |
| 基準日 | 定時株主総会の議決権 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所(市場第1部) |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 郵便物送付先、電話照会先 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話(フリーダイヤル)0120-782-031 |
| 公告方法 | 電子公告により、以下の当社ホームページに掲載いたします。 http://msh.mitsui-soko.com/ |

■ 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設された株主様は、三井住友信託銀行株式会社(左に記載の「郵便物送付先、電話照会先」と同じです。)にお申出ください。

■ 未払配当金の支払のお申出先について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社(左に記載の「郵便物送付先、電話照会先」と同じです。)にお申出ください。

今回の表紙・・・2017年11月、横浜市南本牧に新倉庫が竣工

環境負荷の低減と高品質なサービスの提供を両立

恵まれた立地条件と全ての保管庫に定温空調設備を備えたこの施設は、環境負荷の低減と高品質なサービスの提供を両立させる戦略的配送拠点としての役割が期待されています。

(施設概要)

倉庫名称：三井倉庫株式会社 南本牧倉庫

住 所：横浜市中区南本牧3番20

延床面積：31,565㎡ (9,548坪)

主な設備：全館定温空調、自家発電、入退出管理システム、一部壁面緑化 など



環境負荷の低減と高品質サービスの提供を実現